

1、社会適応性の意義

知的発達症（知的障害） 知的と適応行動の両方に困難を示す

→知的と社会適応性の評価が両方必要

※適応行動の代表的なスキル・概念的スキル 社会的スキル 実用的スキル

神経発達症（発達障害） 社会適応上の困難を示す

→将来に向け適切な理解と対応が必要

2、社会適応性の評価の方法

- ・行動観察 学校生活、日常生活、実習先などでの様子について記録を取る
- ・聞き取り 保護者、教員からの聞き取り
- ・検査法 バインランド S-M社会生活能力検査 ASA旭出式社会適応スキル

3、ASA朝日出式社会適応スキル検査の概要

- ・作成 2012年刊行
- ・対象 年少~高校3年生
- ・回答者 対象の子どもをよく知る大人
- ・評価方法 0点（できない） 1点（時々できる、言われればできる）
2点（できる）で評価する
- ・商用時間 20分程度
- ・構成 言語スキル 日常生活スキル 社会生活スキル 対人関係スキル
- ・スキル段階 得点を7段階に分割し段階得点を出す
- ・活用 社会適応スキルの全般的な獲得状況の評価を行う
関係者の共通理解を深める
支援に向けて重点を置くべき領域の選定や目標設定に利用する
個別支援作成に利用する 支援効果をみる
保護者との相談に利用する
- ・考慮すべき内容 強みを生かす？弱みを設定する？本人や保護者の願いの活かし方
具体的な段階をどう設定するか？
年齢・経験・興味関心など考慮する
こどもの不適応行動について理解する